

# 心肺蘇生法の流れ

## 5 人工呼吸



傷病者の鼻をつまみ、空気が漏れないようにして、息を約1秒吹き込む

息を吹き込んだ際は、目視で傷病者の胸が上がるのを確認します。もし、胸が上がらない場合でも、息の吹き込みは2回までとし、10秒以上胸骨圧迫を中止しないでください。人工呼吸後は、すぐに④の胸骨圧迫を再開します。

**コロナ対応** 成人の心停止に対しては、人工呼吸は行わない。  
子どもの心停止に対しては、講習を受けて人工呼吸の技術を身について、人工呼吸を行う意思がある場合には、人工呼吸も実施する。

※子どもの心停止は、窒息や溺水など呼吸障害を原因とすることが多く、人工呼吸の必要性が高いと考えられるからです。

## 7 心電図の解析



### AEDが自動的に心電図の解析を実施

心電図を正確に解析するため、解析中は傷病者の体に触れないでください。解析の結果、電気ショックを行う必要がある場合は「ショックが必要です」、必要ない場合は「ショックは不要です」などの音声メッセージが流れます。

ショックが必要

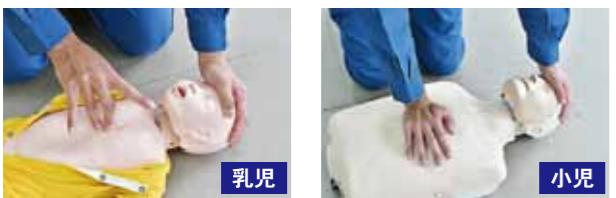
ショックは不要

## 心肺蘇生の再開



心電図の解析の結果、電気ショックを行う必要がないと判断された場合は、直ちに④⑤の心肺蘇生を再開してください。以後は、AEDの音声メッセージに従ってください。

### ■乳児・小児への胸骨圧迫の方法



指2本で行います。圧迫の強さは、胸の厚さの約3分の1が十分に沈む程度に行います。弱く圧迫したのでは、効果がありません。

体格に応じて、片手または両手で、胸の厚さの約3分の1が十分に沈む程度に圧迫を行います。

### ■乳児・小児へのAEDの使用方法

- 乳児・小児にもAEDを使用することができます。
- AEDの種類によって、成人用と小児用の電極パッドが入っている機種や、成人用モードと小児用モードの切り替えを行うことができる機種があります。
- 小学校に上がる前の子ども(乳児や幼児)には、小児用パッドや小児用モードを使用します。
- 小児用の電極パッドや小児用モードがない場合は、成人と同じパッド・モードを使用してください。ただし、パッドの位置は、身体の前後に貼るなど、パッド同士が接触しないように貼ってください。

## 1 反応(意識)の確認



### コロナ対応



傷病者の耳元で声を掛け、肩を優しくたたいて反応を確認

呼び掛けに対して、何らかの返答または目的のあるしぐさがなければ、「反応なし」と判断します。

## 2 119番通報・AED手配の依頼



周囲の人に119番通報とAEDの手配を依頼

周囲に協力者がいない場合は、次の手順に移る前に、自分で119番通報することを優先してください。また、近くにAEDがある場合は、AEDを取りに行ってください。

## 3 呼吸の観察



### コロナ対応



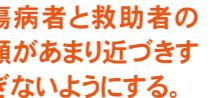
胸や腹部の動きから、傷病者が「普段どおり」呼吸しているか判断

胸や腹部の動きがない場合、約10秒間確認しても呼吸の状態が分からぬ場合、死戦期呼吸が見られる場合は、「普段どおりの呼吸なし」と判断します。

## 4 胸骨圧迫



### コロナ対応



### 死戦期呼吸

突然の心肺停止直後には、しゃくりあげるような、途切れ途切れの呼吸が見られることがあります。この呼吸を「死戦期呼吸」と呼びます。

死戦期呼吸は正常な呼吸(普段どおりの呼吸)ではありませんので、心肺停止と判断し、直ちに胸骨圧迫を開始してください。



傷病者に「普段どおりの呼吸」がない場合、あるいは「普段どおりの呼吸」が分からぬ場合は、心停止と判断し、胸骨圧迫を開始

- 胸の真ん中にある胸骨の下半分を、重ねた両手で強く、早く圧迫を開始します。
- 肘を曲げず、垂直に圧迫し、傷病者の胸が約5cm沈み込むように強く圧迫します。
- 圧迫のテンポは、1分間に100~120回の早いテンポで圧迫します。